

# 【漁況】

## [マアジ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成25年も15万1千トンと低調に推移しました。

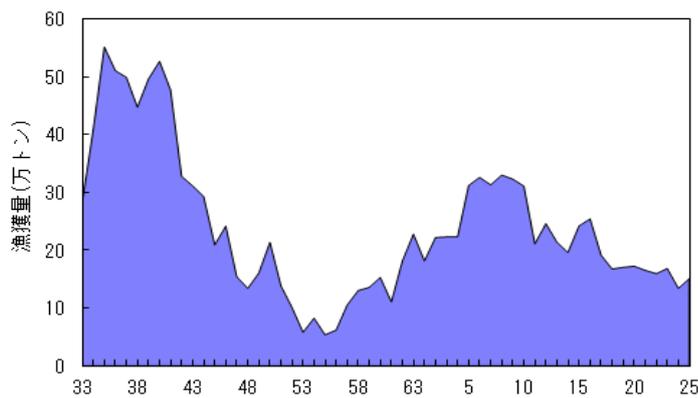


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖、野瀬（縄瀬）、牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、マアジ仔（0歳魚：平成27年生まれ）、小（1歳魚：平成26年生まれ）主体の漁獲がみられ、期全体で380トンの水揚げで、前年の52%及び平年の86%となりました。

### 3. 県内の平成27年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔（0歳魚：平成27年生まれ）で、マアジ小（1歳魚：平成26年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2歳魚以上は低調に推移していますが、0歳魚と1歳魚の漁獲の継続が予想され、前年・平年を上回ると考えられます。

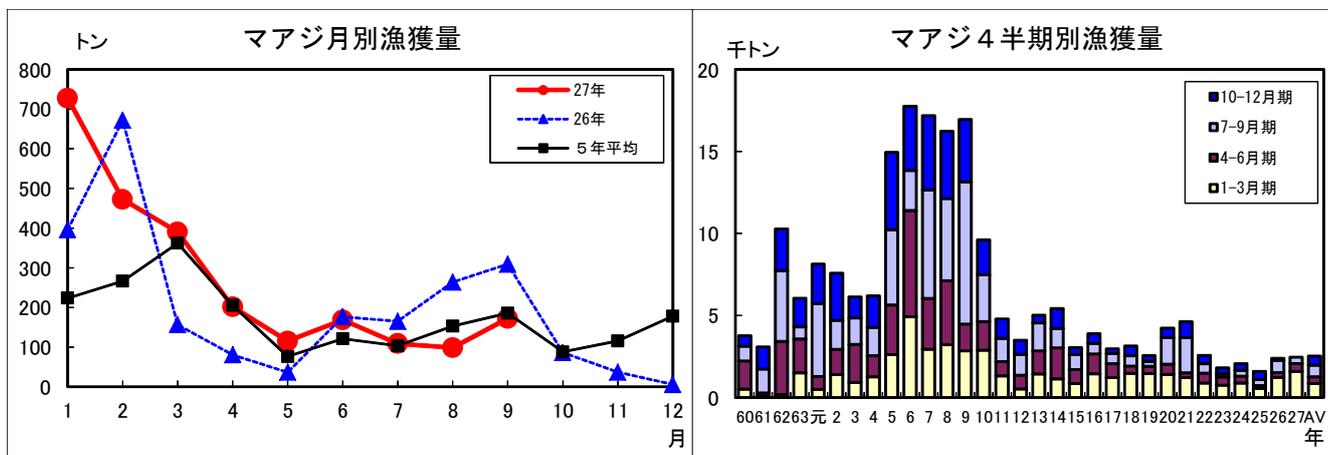


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年9月23日までの水揚げ量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年には65万トンまで増加しましたが、その後減少傾向となり、平成25年は38万6千トンとなりました。

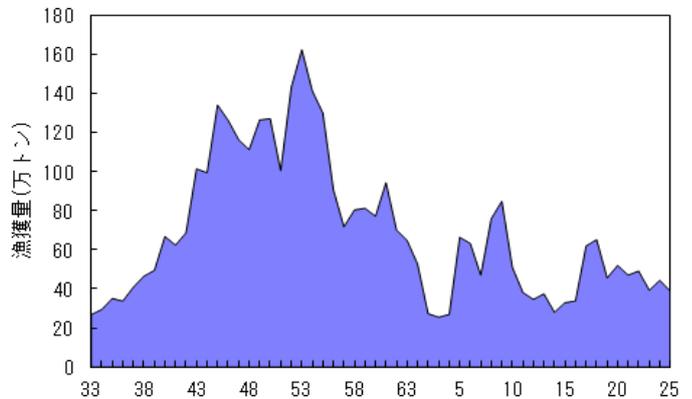


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、湯瀬、馬毛島、宇治で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ豆（0歳魚：平成27年生まれ）、中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）主体に期全体で4,768トンの水揚げで、前年の234%及び平年の117%となりました。

### 3. 県内の平成27年10～12月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ豆（0歳魚：平成27年生まれ）で、小（1歳魚：平成26年生まれ）、中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバは7月まで中主体で推移していましたが、8月から新規加入の豆が加わって漁獲が増加していることから、前年・平年を上回る状況が継続すると考えられます。

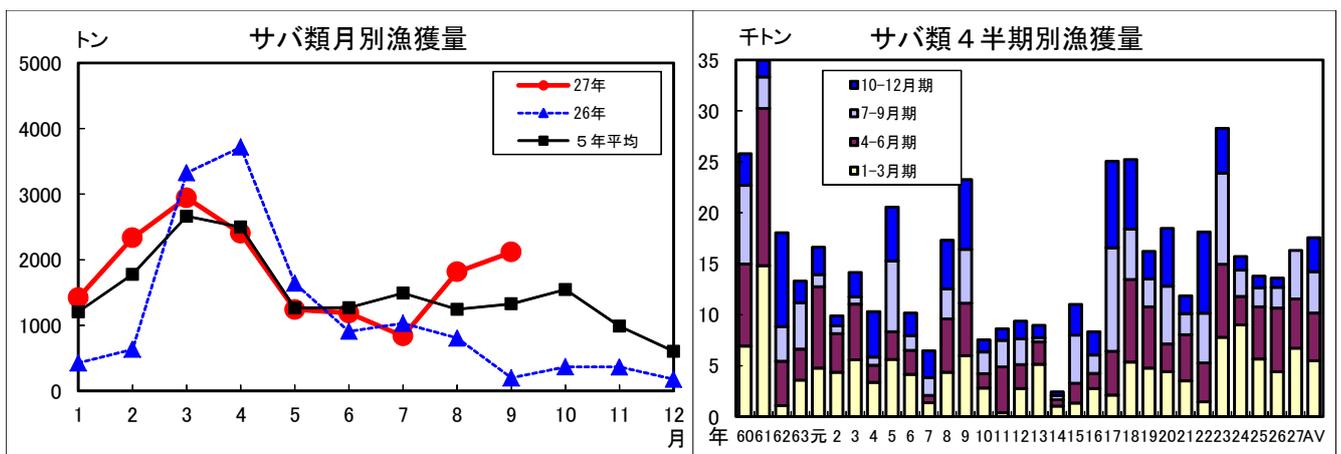


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)，平成27年9月23日までの水揚げ量を使用

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

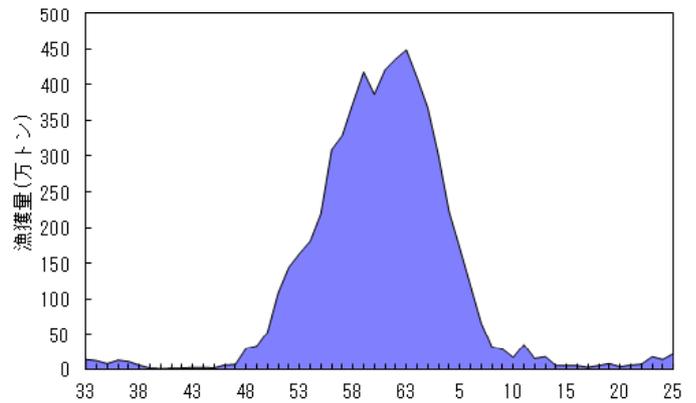


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池、枕崎沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽(0歳魚：平成27年生まれ)主体に755トンの水揚げで前年の39%、平年の67%でした。

北薩海域の棒受網は、61トンの水揚げで前年の90%、平年の77%でした。

## 3. 県内の平成27年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、小羽(0歳魚：平成27年生まれ)でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる0歳魚(平成27年生まれ)は、低調な漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

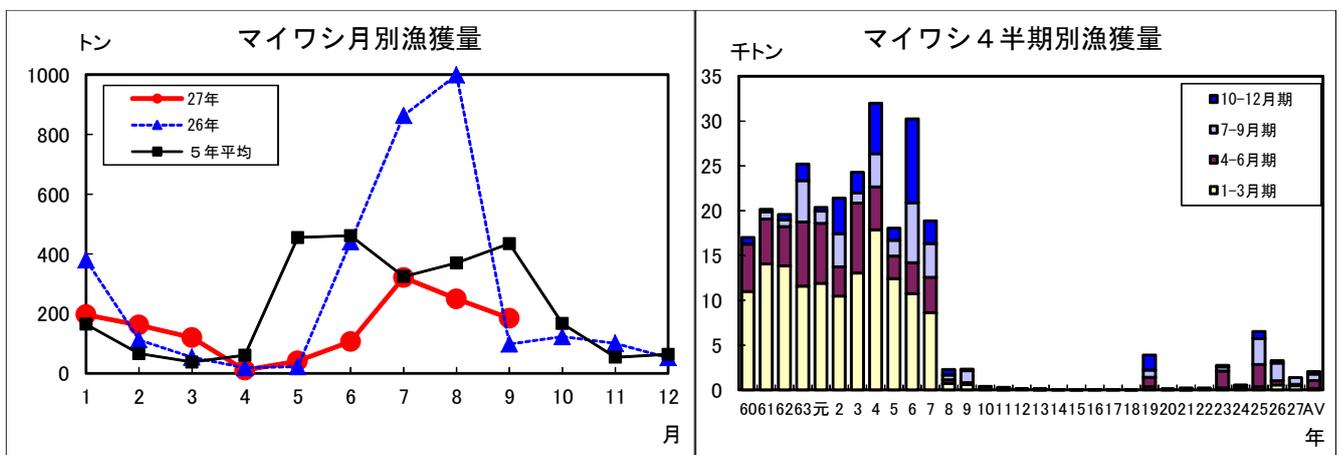


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成22～26年)の平均値(AV)、平成27年9月23日までの水揚量を使用

## [ウルメイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成23年以降8万トンを超える高い水準で推移し、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となりました。

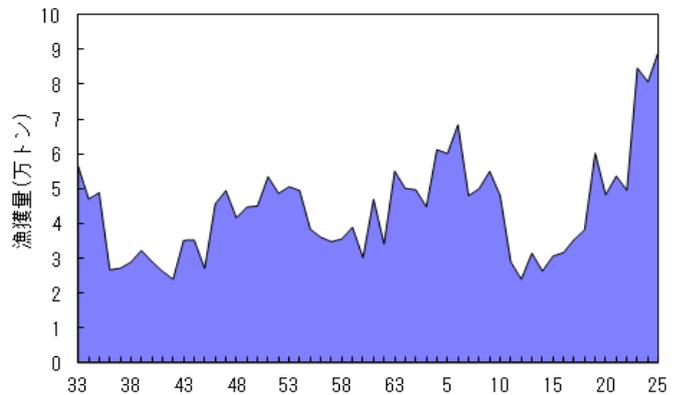


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

### 2. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

北薩海域のまき網では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、開間沖に漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽（0歳魚：平成27年生まれ）主体に490トンの水揚げがあり、前年の21%、平年の20%でした。

北薩海域の棒受網では、732トンの水揚げで前年の100%、平年の69%でした。

### 3. 県内の平成27年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、小羽（0歳魚：平成27年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる0歳魚（平成27年生まれ）は、低調な漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

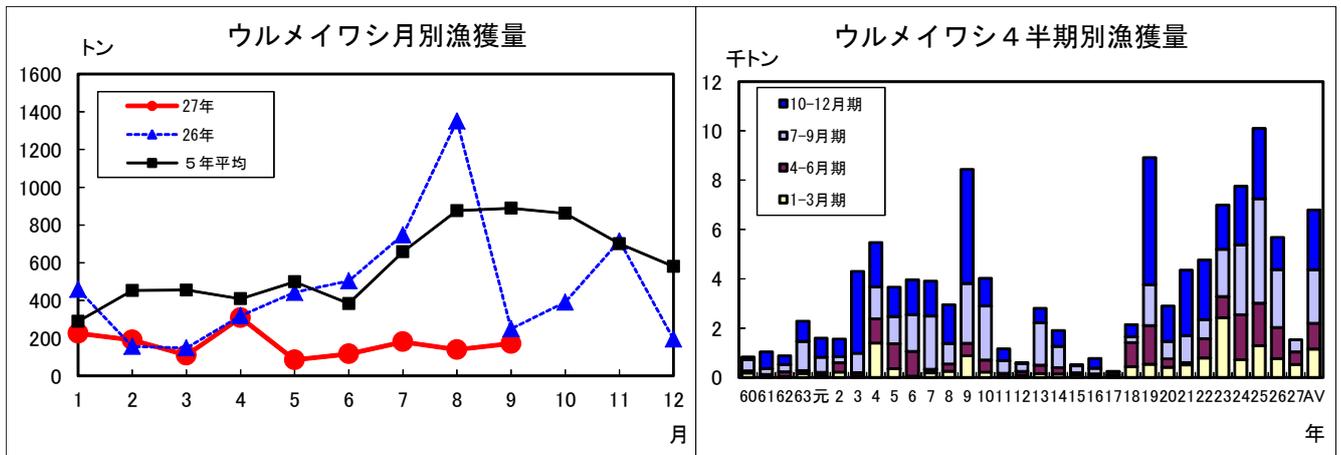


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)，平成27年9月23日までの水揚げ量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成25年は24万7千トンとなりました。

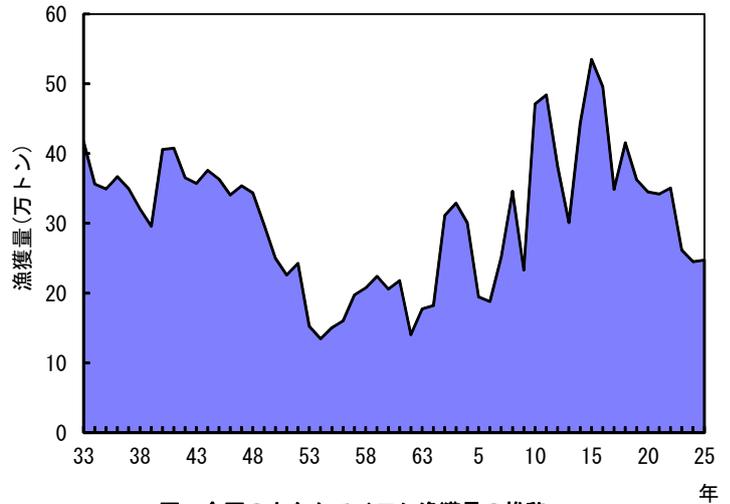


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島（内海）、串木野沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池、枕崎沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽（平成27年生まれ）、中羽（平成27年生まれ）主体に1,464トンの水揚げで、前年の54%、平年の129%でした。

北薩海域の棒受網では、長島（内海）、川内沖に漁場が形成され、中羽（平成27年生まれ）主体に278トンの水揚げで、前年の136%、平年の104%でした。

## 3. 県内の平成27年10～12月期の見とおし

中羽（平成27年生まれ）と大羽（平成26年生まれ）が漁獲の主体で、来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況は、非常に好漁であった前年と同様に推移していますが、9月に入り漁獲は落ち込んだため、来遊水準は前年よりは下回りますが、平年並の来遊は見込めると考えられます。

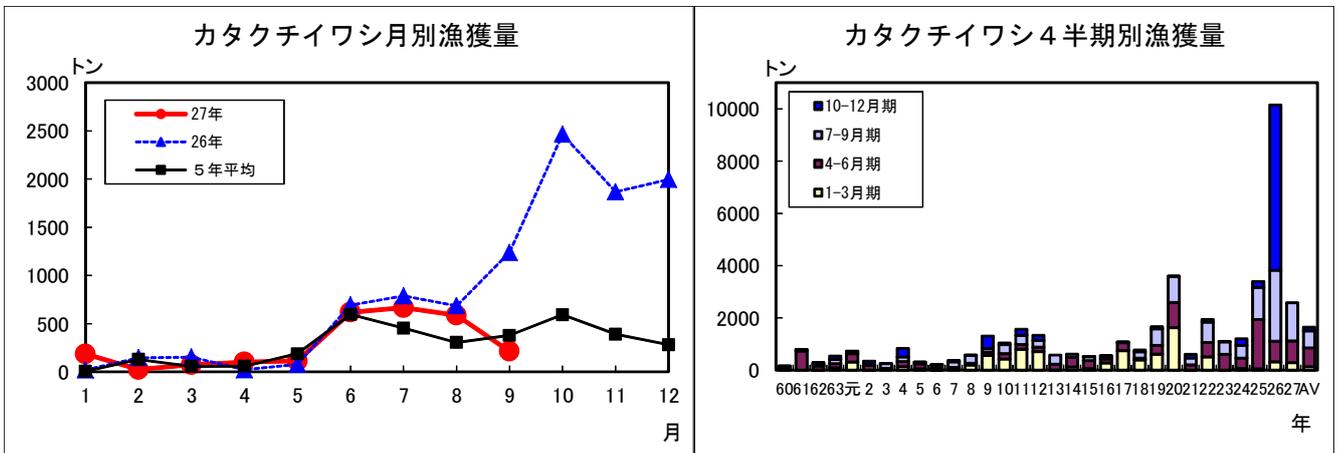


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年9月23日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

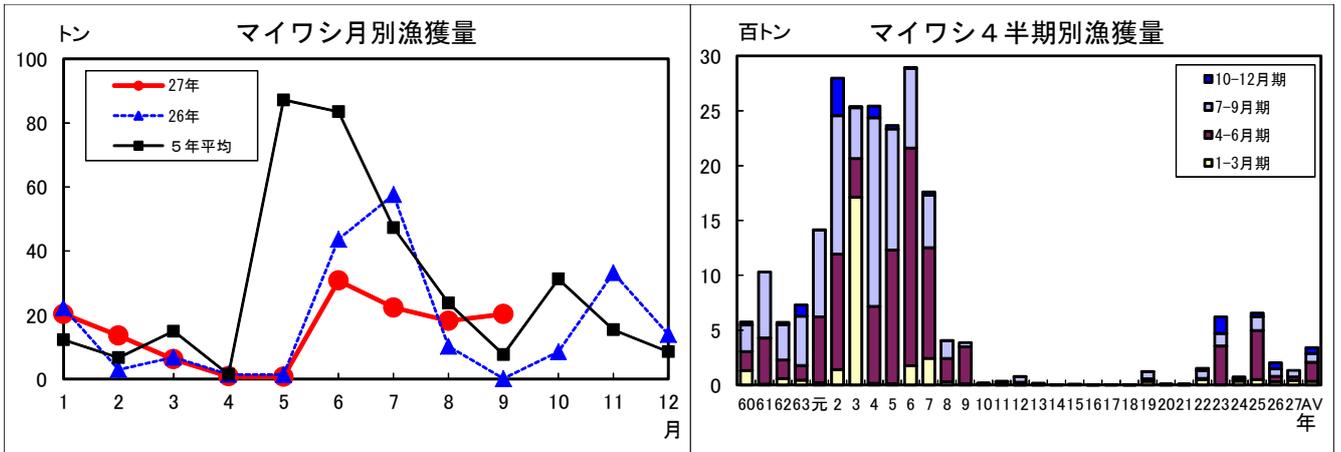


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

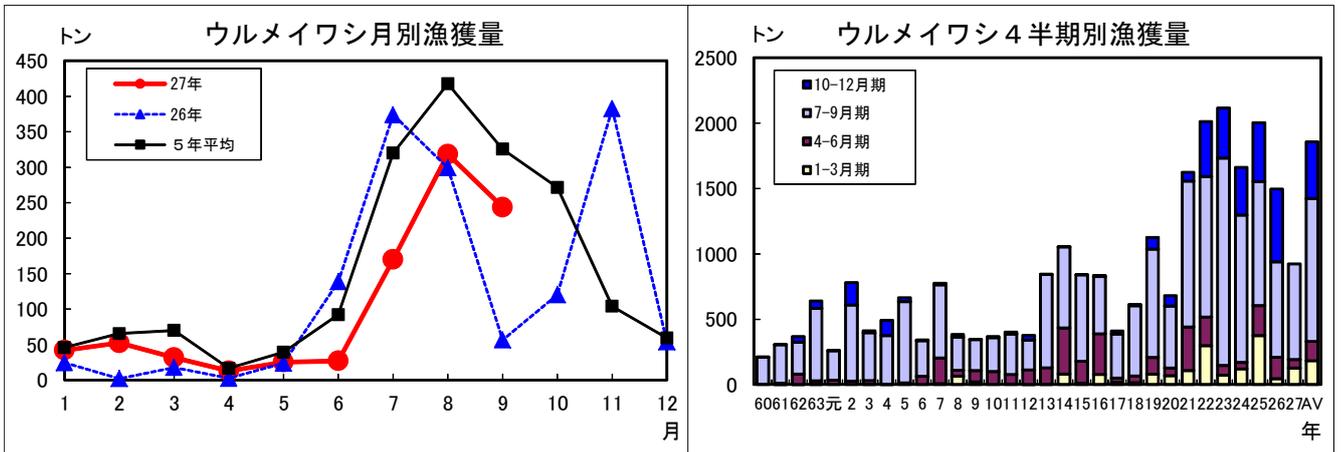


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

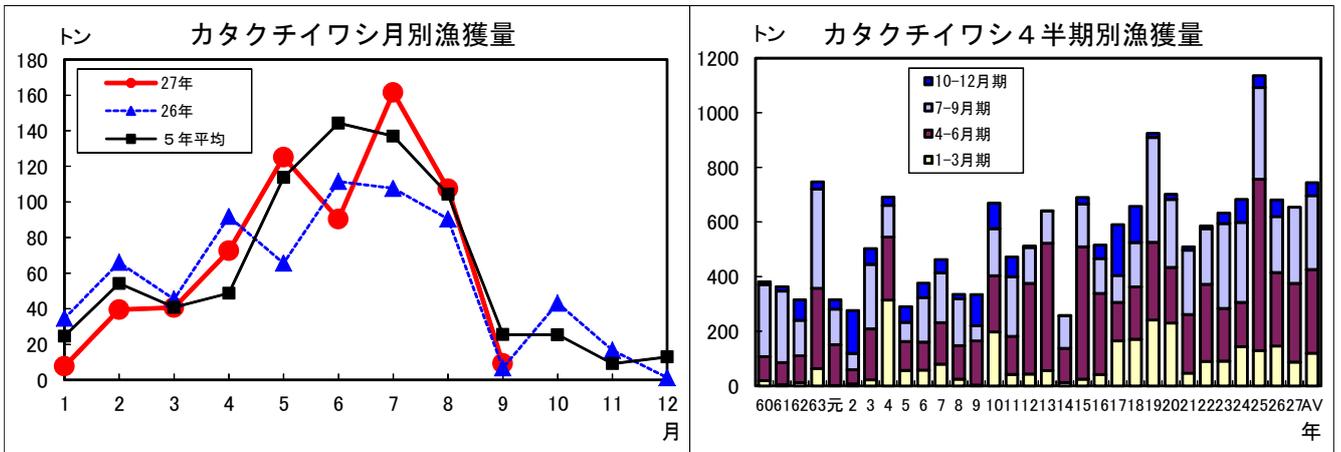


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成22~26年)の平均値(AV),平成27年9月23日までの水揚量を使用

## [参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は，平成2年の21,700トンピークに急減し，平成6年以降は，1,500トンから4,500トンの間での推移しており，平成26年は2,000トンとなりました。

平成27年7～9月は，宇治，湯瀬，黒島で漁場が形成され，期全体で124トンの水揚げで，前年の60%及び平年の25%と低調に推移しました。

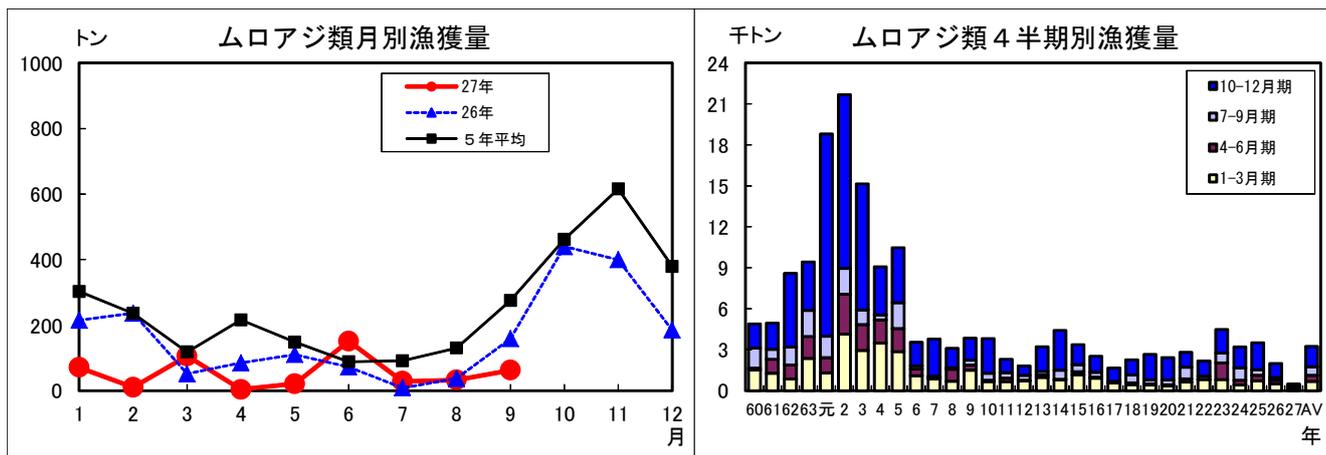


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)，平成27年9月23日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 県内の平成27年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は，平成元年の5,300トンピークに一旦減少し，平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが，再び減少傾向で平成26年は654トンとなりました。

平成27年7～9月は，屋久新曾根でオアカムロ中主体の漁獲がみられ，期全体で175トンの水揚げで前年の116%及び平年の111%となりました。

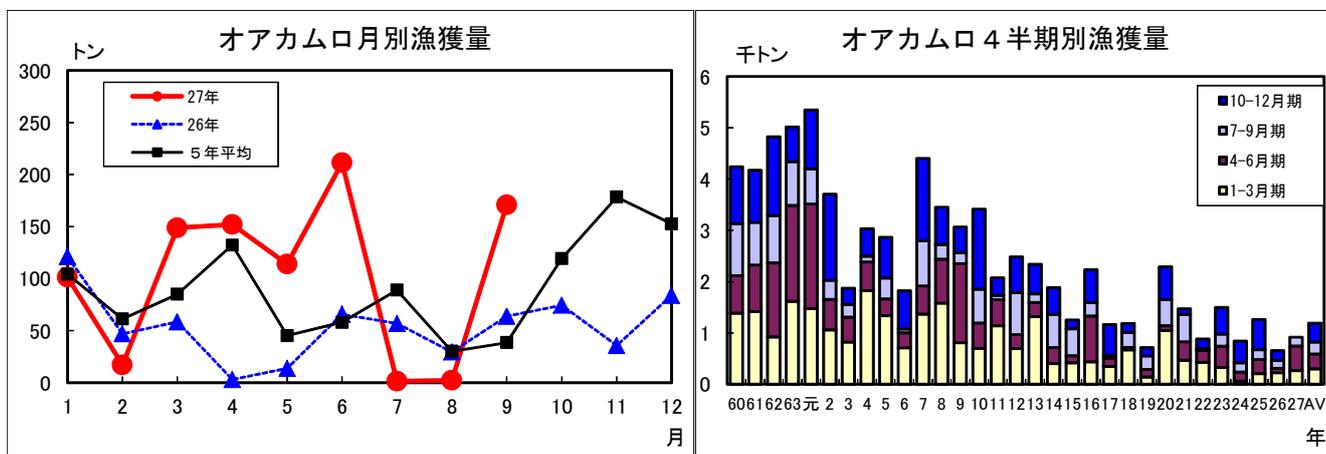


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)，平成27年9月23日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 県内の平成 27 年 7～9 月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが、平成 16 年以降は低調に推移し、21 年は過去最低の 94 トンとなりました。

22, 23 年はやや増加したものの依然低調でしたが、26 年は 694 トンと増加しました。

平成 27 年 7～9 月は、串木野沖、長島(内海)でマルアジ中、大主体の漁獲がみられましたが、期全体で 52 トンの水揚げで、前年の 25 % 及び平年の 68 % と低調に推移しました。

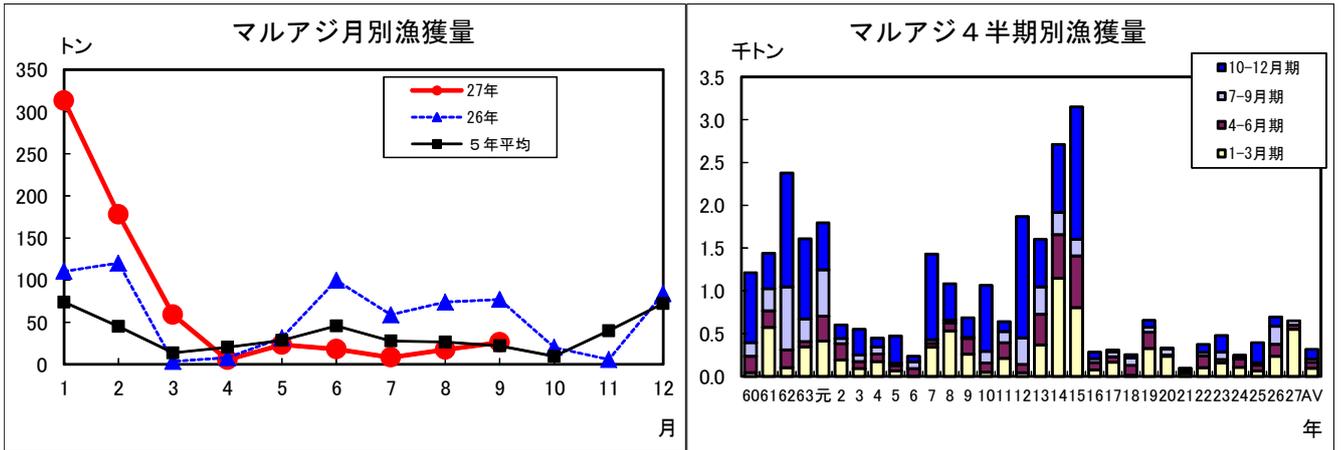


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去 5 年（平成 22～26 年）の平均値(AV)、平成 27 年 9 月 23 日までの水揚げ量を使用